

令和5年度 第1回 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進協議会
議事概要

■日 時：令和6年3月27日（水） 10：30～12：00

■場 所：西播磨総合庁舎大会議室

■出席者：別紙

■報 告：

- （1）要綱の改正について
- （2）兵庫県における総合治水の取組み
- （3）国の流域治水の取組み

■議 事：

- （1）主な取組実績
- （2）計画改定の方向性、スケジュール

■その他：

- （1）CG ハザードマップのリニューアルについて

■配布資料：

次第、出席者名簿、配席図

資料1 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進協議会設置要綱

資料2 兵庫県における総合治水の取組み

資料3 国の流域治水の取組

資料4 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進計画の主な取組実績

資料5 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進計画の改定の方向性

資料6 地域総合治水計画の改定スケジュール

資料7 CG ハザードマップのリニューアルについて

参考資料1 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進協議会公開要領

参考資料2 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進協議会のこれまでの経緯

参考資料3 西播磨西部（千種川流域圏）地域総合治水推進計画

参考資料4 フォローアップシート

参考資料5 総合治水条例の概要（パンフレット）

参考資料6 みんなでとりくもう！「総合治水」（パンフレット）

参考資料7 田んぼダム（パンフレット）

●議事

(1) 公開要領第 11 条 2 項に基づく議事録に関する構成員の指名について

上郡町 梅田町長を指名

(2) これまでの経緯について

参考資料 2 を用いて事務局が説明

(3) 要綱の改正について

資料 1 を用いて事務局が説明

(4) 兵庫県における総合治水の取組みについて

資料 2 を用いて事務局が説明

質問（会長）：河川対策の進捗率が 56.8%から 60.1%に増加しているものの、対策があまり進んでいないように見える。

回答（事務局）：河川の管理延長が長いと、パーセンテージで見ると数字が上がっていないように見えるが、延長で見ると 10 年で約 100km の改修となる。

質問（会長）：条例策定後に河川改修がそれまでより進展したのか。

回答（事務局）：条例策定後に加速したわけではない。

質問（会長）：津門川における地下貯留管は地下トンネルと別の定義なのか。

回答（事務局）：津門川は基本方針において地下の管を海まで伸ばして地下河川にする計画であるが、今回の整備では海までは掘らずに、地下貯留管として活用する予定である。

質問（会長）：地下貯留管のような対策は兵庫県では進んでいるのか。

回答（事務局）：地下貯留管は工事費がかなり高額となるため、現在地下貯留管として事業を実施しているのは津門川のみとなる。また、姫路市を流れる水尾川では地下放水路を整備する事業を行っている。

質問（会長）：この地域は地上部の市街化が進行しているため、対策コストが多少高くても地下貯留管がよいという判断だったのか。

回答（事務局）：非常に市街化されている箇所であり、河道の拡幅も出来ないため、地下貯留管を整備することとした。

質問（会長）：既存ダムの利水容量を利水者の協力を得て、事前放流した事例はあるのか。

回答（事務局）：青野ダムで実施した事例がある。貯水量についても問題なく回復した。

質問（会長）：事前放流により低下させた水位が回復しなかった場合、国からの補償等はあるのか。

回答（事務局）：回復しなかった場合の制度は国が設けているが、適用した事例は県内ではない。

質問（会長）：フェニックス共済は兵庫県の先進的な試みだったと思うが、加入率が 1 %程度しか伸びていない状況で、成功度合いをどう考えているのか。

回答（事務局）：本日の参加メンバーでは詳細を把握できていない。

質問（会長）：河川カメラの画像で流量を自動的に計測するようなことを考えているのか。

回答（事務局）：今のところ考えていないが、今後検討する必要があると考えている。

(5) 国の流域治水の取組みについて

資料3を用いて事務局が説明

質問（会長）：被害対象を減少させるための対策は、総合治水では取り込めなかったのか。

回答（事務局）：土地利用規制等の内容は検討したが、私権の制限となるため断念したという経緯があり、総合治水では取り込んでいない。

質問（会長）：千種川を特定都市河川に指定する予定はあるのか。

回答（事務局）：今後検討する必要があると考えているが、具体的な動きはない。

質問（会長）：被害対象を減少させるための対策で、県と市が水害の視点からのまちづくりだけでなく、地域振興の視点からのまちづくりも含めて上手く連携できるようになればよいと思うが、事務局から市長・町長にこうして頂けると助かる、というようなことはないのか。

回答（事務局）：特定都市河川は今後、県でも取組を進めていく必要があると考えているが、具体的にどの河川を対象とするかは個別に市町等と合意形成が必要である。

質問（会長）：全ての河川を特定都市河川に指定しない理由はあるのか。

回答（事務局）：合意形成が非常に重要となるため、市町も含めて合意形成を丁寧に図っていく必要があると考えている。県では姫路市を流れる水尾川で検討を進める予定としているが、その後については具体的な予定はない。

質問（会長）：特定都市河川に指定すると開発や私権が制限され、かえってまちづくりによくないかもしれないため、関係各位の合意形成が必要ということか。

回答（事務局）：開発行為に対する対策の義務付けについて、総合治水条例では1ha以上の開発行為が対象となるが、特定都市河川流域では1,000m²以上の開発行為が対象となり、小規模な開発も対象となる。そのため、関係者と合意形成を丁寧に図っていく必要がある。

意見（会長）：水害リスクを踏まえたまちづくりの推進と魅力的なまちづくりの推進がうまく重なればよい。

(6) これまでの取組み実績について

資料4を用いて事務局が説明

質問（会長）：田んぼダムの取組みを進めてきている中で、流域全体としてどれくらい効果があるか把握しているのか。

回答（事務局）：効果を検証するために田んぼダム下流の水路の計測などを行っているが、流域全体での効果までは把握できていない。

意見（会長）：実計測データは現場で見たデータとなり非常によいデータだが、それとは別に全体としてどれくらい効果があるのかについても見た方がよい。

質問（会長）：CGハザードマップのアクセス状況等は把握しているか。

回答（事務局）：過去の調査で認知度は4割程度と聞いており、さらに周知の必要があると考えている。

質問（会長）：防災リーダー研修の取組みについて、地域への広がりや貢献の程度について印象はあるか。

回答（事務局）：現状では把握できていない。今後はどのような方が参加しているのか等も含めて調査し、次の計画にどう反映していくか考える必要がある。

質問（会長）：災害に強い森づくりの取組みを進めている中で、兵庫県内の森の状態はどのように評価しているか。

回答（事務局）：山の引継ぎ手がないため、間伐しているところもあるが、荒れているところもあると思われる。

質問（西山委員）：水害や多雨の時期になると、安室ダムと金出地ダムが危険になるのではないかと心配している。オーバーフローしないような対策をどのように具体的に考えているのか教えてほしい。

回答（光都土木）：降雨予測を取り入れており、大きな雨が予測される場合は、金出地ダムでは事前放流を行い、出来るだけ水位を下げた状態で降雨を待つようにしている。ダムが危険な状態になるという件については、ダムに穴があり、入ってきた水より少ない量をその穴から放流している。計画以上の降雨に対しても、1/200以上の規模まで流せるようになってきている。また、それよりも大きな雨が予測される場合は、3時間前にはサイレンを鳴らして、避難を促すような啓発を行うようにしている。

質問（西山委員）：雨が降る前に少しづつ放流することについて、子供が魚捕りをやっていたりすることもあるが、事前の告知や下流への連絡などは大丈夫か。

回答（光都土木）：水位が急に上がらないように少しづつ放流していくことと、放流する前にパトロールを行い、対応している。

(7) 改定の方向性とスケジュールについて

資料5、6を用いて事務局が説明

計画改定の方向性として、以下の点を説明

- ・河川下水道対策は引き続き整備を計画的に進める。
- ・流域対策は計画に対しては問題なく整備を進めているものの、公園・ため池等の総数に対する整備済み施設数は少ないことから、各市町で具体的な対策箇所を少なくとも1箇所、よければ複数箇所挙げ、計画へ反映して頂きたい。そのため、4、5月に個別協議をお願いしたい。
- ・減災対策は、県市町の課題を踏まえた取り組みや社会情勢の変化に対する取り組みを計画に反映する。

質問（牟礼市長）：赤穂市では上流部の河川改修が平成28年度に完成して、以降大きな雨があまりないが、地元の方々は雨が降った時に、従来よりも30分位早く流れてくるという風な不安を持っている。こういった意味で、個別に具体的なお願いをしていきたい。また、スケジュールにある令和6年の4月から5月の個別協議はどういったレベルで対応したらいいか教えてほしい。

回答（事務局）：担当者会議に参加いただいている課長クラスの方々に話をさせていただき、どのような観点で流域対策を行うか、具体的にそういう箇所があるか、後は補助・助成等も含めて協議したい。

質問（会長）：まるごとまちごとハザードマップについて、対象地域が広く、標識をどこかにポンと置いても分かるのだろうかと感じるが、整備を推奨されているのか。

回答（光都土木）：現地目で見て分かるようにして、住民の方にリスクを知っていただくようにしたい。

意見（会長）：分かり易い場所全部に設置することは難しいと思うが、設置場所がこれ位危ないと分かる
とよいので、検討していただきたい。

(8) CGハザードマップのリニューアルについて

資料7を用いて事務局が説明

質問（会長）：CGハザードマップが作成された後に、年代別に人を集めて操作性等を試すようなことを
行っているのか。

回答（光都土木）：そこまでは行っていないと思われる。サイトの使い勝手についてはアンケート調査を
行い、意見を伺っている。リニューアル後についてもアンケート調査を行うと思われる。

質問（会長）：国管理河川等の治水安全度が異なる河川のハザードマップが重なるようになるのか。

回答（光都土木）：国のサイトにそのままアクセス・表示できるようにしたもので、県管理河川と国管理
河川についてそれぞれのサイトで見えていたものを、同じサイトで見れるようにしたものである。

意見（会長）：協議会の取組みを魅力ある町づくりと上手く結合させ、様々なことに取組んでいただき
たい。またそのような兵庫県の取組みが中央に伝われば一つの成功と評価できると思われる。

(以 上)

令和5年度 西播磨西部(千種川流域圏)地域総合治水推進計画協議会 出席者名簿

【構成員】

所 属		職 ・ 氏 名		備考
学識経験者	神戸大学	准教授	小林 健一郎	
兵庫県	西播磨県民局	局長	渡瀬 康英	欠席
市町	相生市	市長	谷口 芳紀	
	たつの市	危機管理監	内田 裕康	代理
	赤穂市	市長	牟礼 正稔	
	宍粟市	次長兼危機管理課長	田中 藤夫	代理
	上郡町	町長	梅田 修作	
	佐用町	副町長	江見 秀樹	代理
県民委員	相生市連合自治会	会長	山田 勝利	
	たつの市西栗栖地区角亀自治会	会長	高野 良雄	
	赤穂市自治会連合会	会長	矢野 英樹	
	上郡町連合自治会	会長	西山 武彦	
	佐用町自治会連合会	会長	藤本 正文	